

## 男女共同参画による活力を

**問** 具体的な活力の例として基幹産業である農業の従事者数、女性の占める割合、また市内の女性団体活動は。

**経済建設部長** 農業従事者数は、平成22年の数値で男性が1千459名、女性が1千750名で、女性の占める割合は54.5%である。

市内で活躍している女性の団体は、愛知県知事に認定された農村生活アドバイザーで組織する研究会がある。この団体は、先進的経営の推進と魅力ある農家生活の実践を地域へ普及するための地域のリーダーとして活動をしている。

また、農村生活の研究や情報交換を目的とした「農村輝きネット・愛西」があり、ゆとりある農村生活の実践に関する知識・技術の習得や地域に伝わる食を始めとした伝統文化を次世代に伝承するため食農教育を実践している。さらに、JAに所属する団体として、食農育活動や地域の絆づくりを活動目標とした「JAあいち海部女性部」と福祉活動を主に行っている「たすけあいの会」があり、それぞれ活発的な活動をしている。



竹村 仁司 議員

**問** 男女共同参画は、女性だけでなく男性の課題でもある。職場や家庭において男性の参画に対する関わりは欠かせない。本市の市役所においても男女共同参画を推し進め、28年度に策定予定である第3次愛西市男女共同参画プランの推進につなげたい。そこで、本市の女性職員数と役職者数、また女性の意見の反映について、市の審議会、あるいは委員会の女性の割合、女性の登用に関しては。

**総務部長** 職員の数、男性が314人、女性が206人、合計520人である。そのうち役職者については、男性が57人、女性が5人の計62人となっている。市の審議会などにおける女性の割合、登用については、第2次愛西市男女共同参画プランの目標値が定められている。23年度には20.3%だったが、26年度には31.9%まで上昇した。目標値である30.5%を達成している。

今後、性別にとらわれないこと、女性の力や意見を積極的に活かすことができるような仕組みづくりに取り組んでいきたい。



長年蓄積してきた図書館ノウハウが失われるなどのおそれがある。

**教育部長** 図書館業務や活動について、指定管理移行後も同様の内容で継続し

つつ、今まで以上の業務内容で行ってもらえるよう考えている。直営のいかんを問わず、改善すべき点は改善しなければならない。市民に親しまれる図書館を目指し努力する。

**問** 継続的に専門の職員がしっかりと図書館の運営に携わって、特色のある図書館をつくらせていくことが非常に重要だが。

**市長** 一般職として、司書資格を持っている職員を現在配置している。この状況で、今後も対応できるか考えていかなければならない。よりよい市の図書館づくりに向け、教育部局で目標を持って、現状の課題を洗い出し、どういった運営をしていくのかを示してほしいと考える。

### その他の質問

・納税者の立場に立った滞納の解決を



▲愛西市中央図書館